

<p><b>1 題材名</b> 幼児と触れ合おう ～「キッズレポート」を作ろう～</p>																	
<p><b>2 題材の目標</b>                  幼児の観察や幼児と触れ合う活動を通して、幼児に関心を持ち、幼児の心身の発達の特徴や遊びの意義について理解するとともに、幼児との関わり方を工夫できるようにする。</p>																	
<p><b>3 評価規準</b>                  【生活や技術への関心・意欲・態度】                  ・幼児の観察や幼児と触れ合う活動を通して、幼児に関心を持ち、適切に関わろうとしている。                  【生活を工夫し創造する能力】                  ・幼児の心身の発達に応じた遊びや幼児との関わり方について、観察したことを生かして考え、工夫している。                  【生活の技能】                  ・幼児の遊びや遊びと心身の発達について、観点に基づいて観察し、整理することができる。                  【生活や技術についての知識・理解】                  ・幼児の心身の発達の特徴や遊びの意義について理解している。</p>																	
<p><b>4 題材について</b>                  この題材は、内容「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)「幼児の生活と家族」のア「幼児の発達」、イ「幼児の観察」、ウ「幼児との触れ合い、かかわり方の工夫」の関連を図り、幼児の心身の発達に関する知識を「キッズ体験(疑似体験)」や「キッズウォッチング(ビデオ視聴)」を通して身に付け、これらを活用して幼児との関わり方を工夫できるようにするために、保育所での「幼児の観察」や「幼児と触れ合う活動」を位置付けている。                  「キッズ体験」では、幼児の身体の発育や運動の機能など、8つのコーナーを設け、幼児の手形と自分の手の大きさを比べるなどの体験をする。「キッズウォッチング」では、情緒や社会性などに関するビデオを視聴する。これらの体験を通して、感じたことを言葉で表現し、幼児の心身の発達の特徴についてグループで共有する。さらに、知りたいことや疑問に思ったことなど、生徒の興味・関心の高い事柄の中から学習課題を設定し、保育所訪問を通して「幼児の観察」や「幼児と触れ合う活動」を行い、自分の課題に沿って「キッズレポート」を作成し、発表し合う構成としている。</p>																	
<p><b>5 主な学習活動</b>  <b>(1)題材の指導計画（全9時間）</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学習活動</th> <th>言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一次 (3)</td> <td>○「キッズ体験」や「キッズウォッチング」を通して、幼児の心身の発達について話し合い、その特徴をまとめる。(2)</td> <td rowspan="5">                     ・体験から気付いたことを、実感を伴って言葉で表現する活動を取り入れる。レポートには、話し合い活動で気付いたことも記入させる。                      ・遊びの計画をグループで紹介し合い、計画を見直すことができるようにする。                      ・観察の観点を示した観察記録表を用意する。                      ・各自が設定した課題について、体験を基に家庭でのインタビューやゲストティーチャーからの情報、収集した資料等を活用してレポートをまとめることができるようにする。                      ・「キッズレポート」のまとめ方のポイントを示し、課題について考えたことを自分の成長と関わらせてまとめることができるようにする。                 </td> </tr> <tr> <td>第二次 (1)</td> <td>○幼児の遊びの特徴をまとめる。(1)</td> </tr> <tr> <td>第三次 (5)</td> <td>○保育所で幼児と遊んだり、触れ合ったりする計画を立てる。(1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○課題をもって保育所を訪問し、幼児を観察したり、触れ合ったりする。(2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○保育所訪問を振り返り、観察したことをまとめ、自分の課題について「キッズレポート」を作成する。<b>(2：本時)</b></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○「キッズレポート」を発表し合い、幼児の遊びの意義や幼児との関わり方について話し合う。(1)</td> </tr> </tbody> </table>			学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第一次 (3)	○「キッズ体験」や「キッズウォッチング」を通して、幼児の心身の発達について話し合い、その特徴をまとめる。(2)	・体験から気付いたことを、実感を伴って言葉で表現する活動を取り入れる。レポートには、話し合い活動で気付いたことも記入させる。 ・遊びの計画をグループで紹介し合い、計画を見直すことができるようにする。 ・観察の観点を示した観察記録表を用意する。 ・各自が設定した課題について、体験を基に家庭でのインタビューやゲストティーチャーからの情報、収集した資料等を活用してレポートをまとめることができるようにする。 ・「キッズレポート」のまとめ方のポイントを示し、課題について考えたことを自分の成長と関わらせてまとめることができるようにする。	第二次 (1)	○幼児の遊びの特徴をまとめる。(1)	第三次 (5)	○保育所で幼児と遊んだり、触れ合ったりする計画を立てる。(1)		○課題をもって保育所を訪問し、幼児を観察したり、触れ合ったりする。(2)		○保育所訪問を振り返り、観察したことをまとめ、自分の課題について「キッズレポート」を作成する。 <b>(2：本時)</b>		○「キッズレポート」を発表し合い、幼児の遊びの意義や幼児との関わり方について話し合う。(1)
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点															
第一次 (3)	○「キッズ体験」や「キッズウォッチング」を通して、幼児の心身の発達について話し合い、その特徴をまとめる。(2)	・体験から気付いたことを、実感を伴って言葉で表現する活動を取り入れる。レポートには、話し合い活動で気付いたことも記入させる。 ・遊びの計画をグループで紹介し合い、計画を見直すことができるようにする。 ・観察の観点を示した観察記録表を用意する。 ・各自が設定した課題について、体験を基に家庭でのインタビューやゲストティーチャーからの情報、収集した資料等を活用してレポートをまとめることができるようにする。 ・「キッズレポート」のまとめ方のポイントを示し、課題について考えたことを自分の成長と関わらせてまとめることができるようにする。															
第二次 (1)	○幼児の遊びの特徴をまとめる。(1)																
第三次 (5)	○保育所で幼児と遊んだり、触れ合ったりする計画を立てる。(1)																
	○課題をもって保育所を訪問し、幼児を観察したり、触れ合ったりする。(2)																
	○保育所訪問を振り返り、観察したことをまとめ、自分の課題について「キッズレポート」を作成する。 <b>(2：本時)</b>																
	○「キッズレポート」を発表し合い、幼児の遊びの意義や幼児との関わり方について話し合う。(1)																
<p><b>(2)本時の学習（7・8／9時間）</b></p> <p>①目標                  幼児の観察や幼児と触れ合う活動を通して、幼児の遊びと心身の発達について理解し、レポートにまとめることができる。</p> <p>②本時の展開                  ○保育所訪問を振り返り、幼児を観察したことを観点に基づいて整理する。                  ○自分の課題について、保育所での体験を基に、家庭でのインタビューや保育士から得た情報、収集した資料等を活用してレポートにまとめる。</p>																	

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領技術・家庭〔家庭分野〕の内容「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)「幼児の生活と家族」のア「幼児の発達」、イ「幼児の観察」、ウ「幼児との触れ合い、かかわり方の工夫」に関する事例であり、第3の4においては「各分野の指導については、衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。」と示されている。

家庭分野では、製作や調理などの実習や観察等の実践的・体験的な学習活動を重視しており、これらの学習活動によって、様々な語彙の意味を実感を伴って理解することができる。そのためには、実習等の体験を振り返り、その結果を整理し考察して実習レポートを作成したり、発表したりするなどの言語活動を充実させることが大切である。

本事例では、幼児を観察したり、遊んだり、触れ合ったりするなどの活動後に、体験から感じ取ったことや気付いたことを整理し考察し、共有する活動を通して、幼児の心身の発達の特徴や遊びについて理解したり、幼児との関わり方を工夫したりすることをねらいとしている。これらの体験を通して、幼児に関する「発達」「個人差」「遊び」などの言葉を実感を伴って理解したり、学んだ知識を生かして幼児との関わり方について具体的に考えたりすることができる。

そこで、生徒が自分の課題について観察したことを観点に基づいて整理できるレポートを工夫したり、グループでの発表を取り入れたりすることとした。

【言語活動の充実の工夫】

○ 各自の課題を基にした「キッズレポート」(幼児の観察、幼児と触れ合う活動)作成

保育所訪問での体験を基に、自分の課題に沿って「キッズレポート」を作成した。本時では、保育所での体験をレポートにまとめることができるように、まず、幼児との遊びや工夫点、幼児の心身の発達の様子(運動機能、ことば、情緒、社会性など)について観察したことを中心にまとめさせるようにした。次に、保育士を招いて、幼児との接し方や各自が設定した課題についての情報収集ができるようにした。また、設定した課題について理解を深めるために、家族にインタビューしたり、資料等を収集したりできるようにした。さらに、レポートをまとめる際のポイントを事前に示し、課題について自分の考えを明確にできるようにした。

「キッズレポート」には、保育所での幼児の観察や幼児と触れ合う活動から、課題についてわかったこと、自分の幼い頃を振り返って気付いたことなどを言葉や図、絵などで記入できるようにした。「手の機能は大きくなるにつれ発達していくけれど、やっぱり個人差があると思った。」など、特に、「個人差」については、年齢が同じでも興味をもつ遊びは様々であることや、運動の機能や言葉の発達もそれぞれであることを実感した生徒が多く、「キッズレポート」に「個人差」という言葉を使ってまとめていた。体験が概念の把握を容易にしていることが分かる。

○ グループ内の発表による学び合い

「キッズレポート」でまとめたことをグループ内で発表し合い、話し合う時間を設けることで、感じたことを共有したり、自分の考えを見つめ直したりして、幼児の心身の発達や遊びについて理解を深めることができた。また、幼児との関わり方の工夫について考えることができた。発表の際には、他の生徒のレポートの内容やまとめ方から学んだことを記入できる学習カードを用いることにより、自分のレポートのまとめ方についても考えさせることができた。

以上のように、「キッズレポート」の作成を通して、実習等の体験を振り返り、その結果を整理し考察する活動を取り入れることによって、体験と言葉とが結び付き、実感を伴った学習が可能となる。その際、生徒の思考を深めるためには、幼児の観察の観点が明確で一人一人が感じたことや考えた過程が分かる実習レポートを工夫することが重要である。

